

## Maritime Disaster Prevention Center

## What is MDPC?

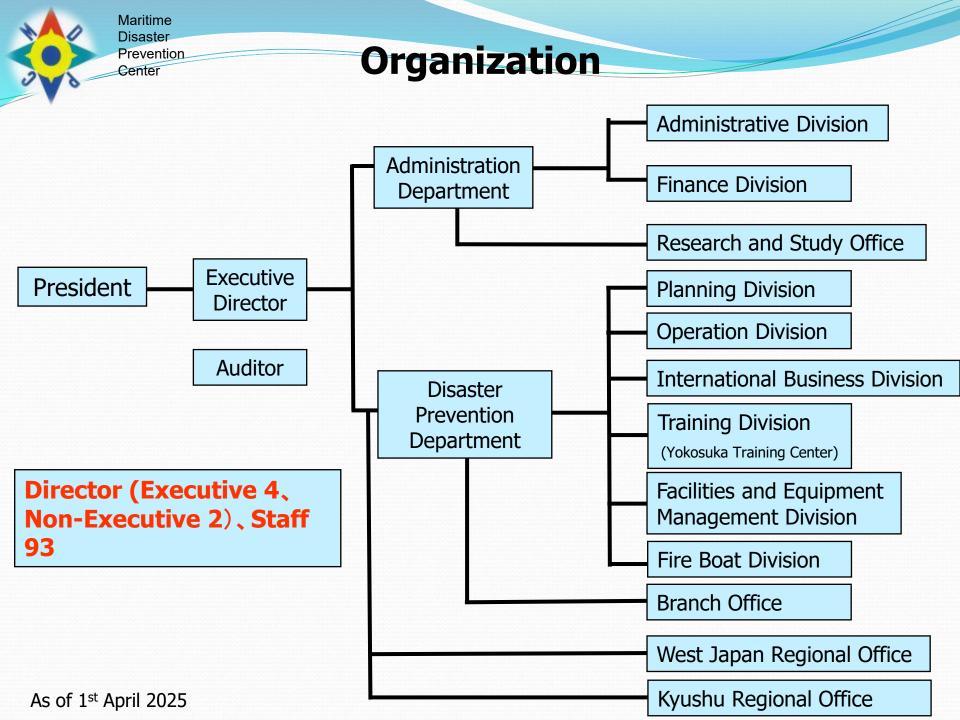
- MDPC is one of the Oil Spill Response Organization (OSRO) in Japan and was established as an authorized corporation in 1976.
- ➤ MDPC used to be directly under Japan Coast Guard. In 2013, MDPC became a private organization and JCG commandant assigned MDPC as "Government Designated Organization for Maritime Disaster Prevention".
- ➤ MDPC does not receive any subsidies from Government of Japan.
- ➤ Since MDPC was established, MDPC has provided more than 200 incident response operations.



Benzene Tanker Fire & Spill



Ammonium Nitrate Spill from a container





# Three necessary abilities for an incident response



Safety Measures Ability Set up safety measures at hazardous incident site

Firefighting Measures Ability

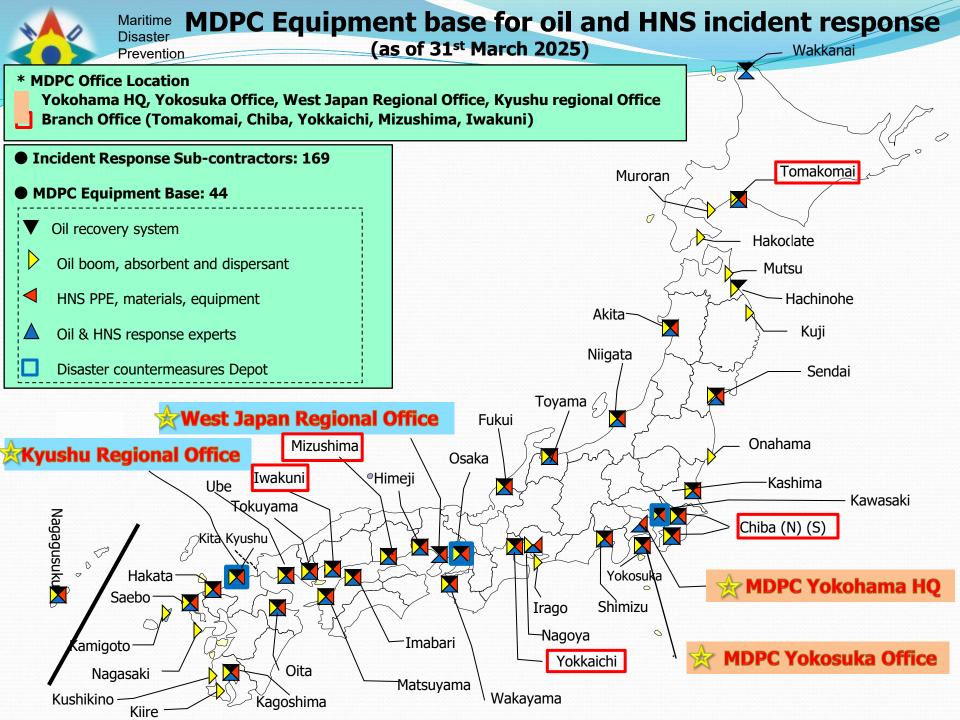
Firefighting operation at a fire and an explosion site





Recovery
Operation Ability
Recovery operation
at a pollution site







# HNS incident response equipment stored at the bases







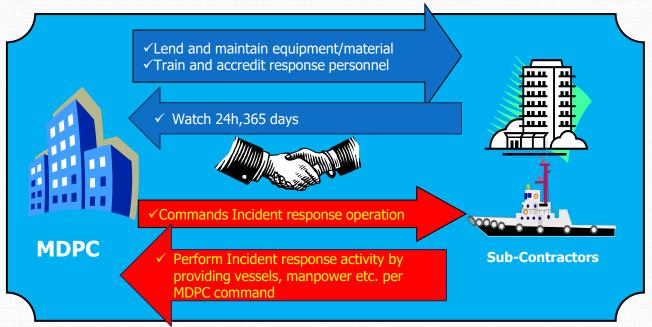


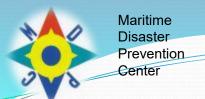




## **Incident Response System Structure**

- ✓ MDPC has more than 169 subcontractors (SC) network for Incident Response.
- ✓ Contract Outline
  - ✓ Normal Time
    - ✓ MDPC prepares and maintains the necessary response equipment/materials.
    - ✓ SC stores the response equipment/materials at their location.
    - ✓ MPDC trains SC personnel periodically to accredited incident response experts.
    - ✓ SC watches the sea area 24hours/365 days.
  - ✓ When Incident happens
    - ✓ MDPC commands Incident Response operation.
    - ✓ SC performs Incident Response activity, such as providing vessels (work boats, tugboats), manpower, operating MDPC equipment/material, collecting spilled HNS/oil. etc.
- \* SCs' own business are providing harbor tug, port service, local salvage, industrial waste disposal etc.





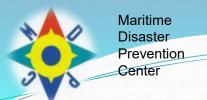
# **Firefighting boat** owned by MDPC



Name	Hiragi
Built in	October 2024
Type and Gross Tonnage	Steel single-body ship 349 G/T
Length	42.00m
Speed	15.2 Kt
Power	Diesel Engine 2,200 PS x 2 sets
Canacity	Crew 8 person (Maximum Passenger 28
Capacity	people)
	20,000l/min×2 sets (Water and Foam)
Water Spraying Equipment	5,000l/min×1 set(Hydro-Chem extinguisher)
	80 mm diameter nozzle Sodium hydrogen
Dry-chemical Fire	carbonate x 2 tons
Extinguisher	Potassium bicarbonate x 2 tons

Name	Kiyotaki		
Built in	December 2001		
Type and Gross Tonnage	Steel single-body ship 263 G/T		
Length	40.00m		
Speed	16 Kt		
Power	Diesel Engine 2,200 PS x 2 sets		
Capacity	Crew 8 person (Maximum Passenger		
Capacity	20 people)		
	18,000l/min×1 set (Water and Foam)		
Water Spraying Equipment	4,000l/min×1 set (Water and Foam)		
	1,800l/min×1 set (Water and Foam)		
Dry-chemical Fire Extinguisher	Sodium hydrogen carbonate x 5.1 tons		





## 海上災害防止センターの業務

Services of MDPC

故対応(有時 Response

·体的運用

危機管理(平時)

Crisis management

『運営費交付金』 なしでの運営

No subsidy from the government

Unified

1. 資機材の保有・事故スタンバイ業務

(The bases of Material and Equipment /Standby services)

資機材・機械器具の保有、管理

Own and manage materials and equipment to prepare for incidents.

2. 消防船業務

4. 国際業務

(Fire Boats services)

東京湾における大型化学消防船

Fire Boats operation in Tokyo bay

横須賀研修所の他、全国の防災要員、スタン バイ契約事業者等に対する実戦訓練を提供

**Training services in Yokosuka** training center and on-site training for entrusted company

3. 訓練業務 (Training services)

5. 調査研究業務(Research & Studies)

表層流調査、各種防災技術、資機材及び次世代 エネルギー事故に向けたへの調査研究等

International cooperation Research & studies for disaster prevention materials and next generation energy.

自己収入のみ による運営

**Operation by own income** 

◆手数料収入 **Commission revenue** 

> \*証明書発行料 **Certificate issuance**

\*消防船警戒料 Firefighting vessels services

\*訓練受講料 等 Training fee, etc.

◆受託収入

\*事故スタンバイ契約料 Standby contract fee

\*訓練提供や調査研究 及び各種コンサルティング による収入 など Income from training, research, and disaster

prevention consulting, etc.







(International services)

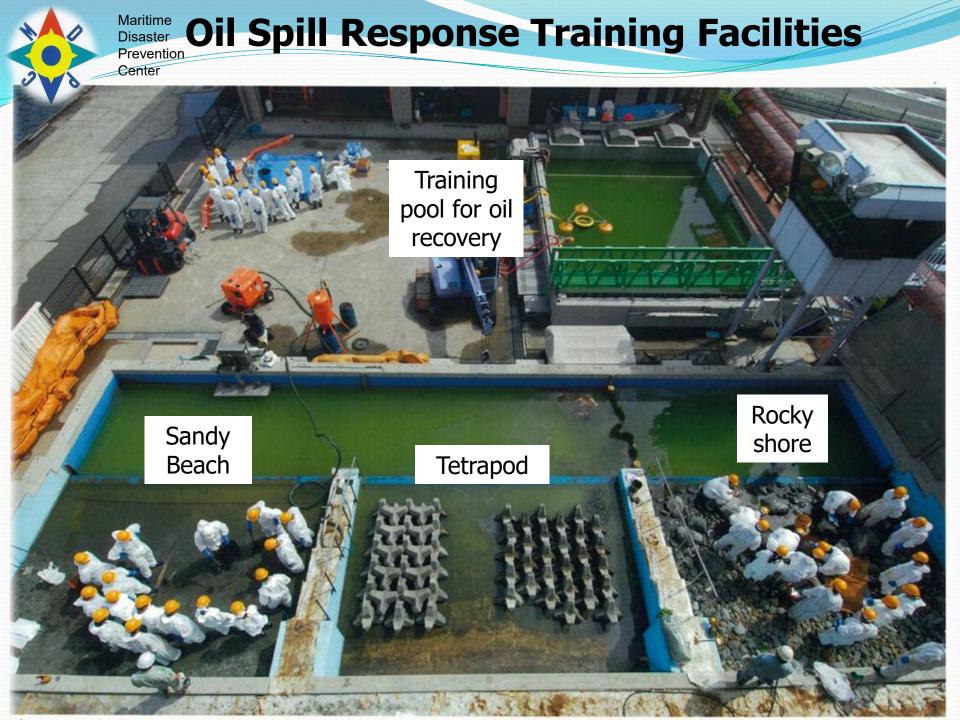
国際業力の推進、 海外へのコンサルティング等

**International consulting** 



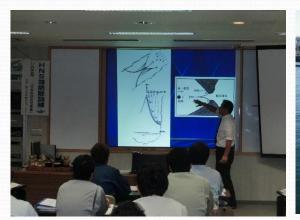
# Firefighting Training Facility (No 2 Sea Fort)







## Oil spill response training







Oil boom deployment



Offshore recovery



Oil skimmer operation



Shoreline cleanup operation



**Tabletop Exercise** 



## Hazardous Noxious Substance (HNS) spill response training



Tabletop experiment of chemical properties



Donning and doffing Chemical Protective Clothing



Dilution by water spray for HNS gas concentration



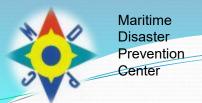
Stop leaking



Decontamination

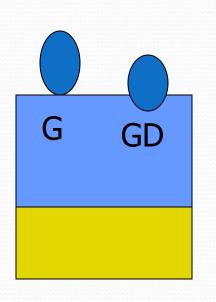


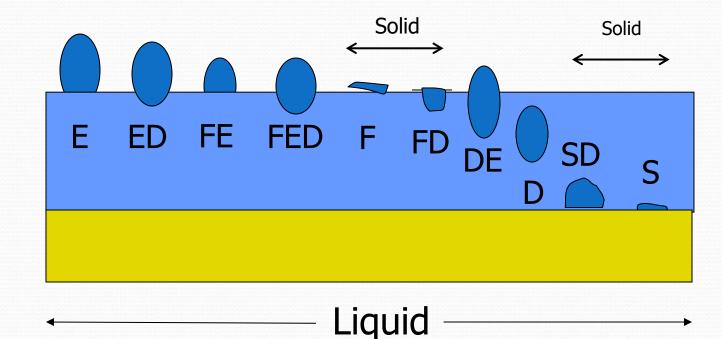
Sampling and Monitoring



# Different behaviors of HNS spill on sea water

## 12 different behavior





– Gas—→

ED: evaporator/dissolver

FE: floater/evaporator

FD. floater/evaporator/

' dissolver

F: floater

FD: floater/dissolver

DE: dissolver/evaporator

D: dissolver

SD: sinker/dissolver

S: sinker

G: gas

GD: gas/dissolver

E: evaporator



Incident

**Explosion & Fire** 

## **HNS** spill incident response process

(Example of Toxic/Flammable substance)

## **Safety Measures Ability**



Set up Zoning



### **Sampling (Marine Environmental Protection)**

Check impact for marine environmental and fisheries Water, sediment & gas sampling



(Site safety measures)

→ To respond HNS spill and firefighting, Prepare appropriate skillful responders.

### **Firefighting**

- Use firefighting boat
- HNS dilution by water spray
- Spray foam and dry chemical fire extinguisher



Firefighting operation by MDPC and sub-contractors

### **Confine/remove HNS**

Low risk

- Decrease evaporation by foam
- Solidify by gelling agent
- Recover the solidify HNS



### **Accelerate** evaporation

- Deploy oil boom
- Accelerate evaporation by water spray



## Maritime Disaster Prevention Center

## **HNS** database

MDPC listed ordinally HNS transported by HNS tankers and made original HNS database specially including spill response at sea water.

品名	キシレン				
英名	Xylene				
別名	キシロール、ジメチルベンゼン、ザイレン o,mpの3種の異性体がある				
国連番号	1307	CAS番号	1330-20-7 (混合)	IMDG CODE	Class3.3/P3394
海防法分類	Y類		消防法分類	第4類第2石》	自類
危規則分類	中引火点 引火性液体類		港則法分類	中引火点 引火性液体類	
化学式	CaH4(CH3)2	分子量	106.17	爆発範囲(%)	1.0~6.0
外観	無色の液体	臭気	芳香族臭	溶解性	水に難溶
比重	0.88	蒸気比重	3.66	沸点(°C)	144.41
融点(°C)	-25.18	引火点(℃)	17.0	発火点(℃)	463
蒸気圧	0.64KPa/4.83m	mHg (20°C)			
腐食性	人:なし 金属	:なし	酸化性	なし	
許容濃度、毒性	日本:50ppm 米国:100ppmTWA 150ppmSTEL A4 毒性:LDss 5000mg/kg(経口rat)				
	<ul> <li>○ 有害性 :皮膚、眼、気道を刺激する。中枢神経抑制作用がある。中毒症状が遅れて出現することがある。ヒトに対する発力ン可能性の心配がある。</li> <li>○ 環境影響 :生分解性がある。水生生物に有害である。水生生物への蓄積性は低い。</li> <li>○ 危険性 :蒸気は空気と混合して爆発性のガスになり、蒸気は空気より重い。引火性が高い。</li> </ul>				
<b>応急措置</b>	可火性が高い。     可火性が高い。     可火性が高い。     可火性が高い。     可火性が高い。     可火性が高い。     可火性が高い。     可火性を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。     可保証・まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣質を緩め呼吸気道を確保した     うえで人工呼吸を行う。     夏遊がないが呼吸をしている場合、意識はあるが呼吸困難な場合は酸素吸入が 有効である。     ○ 皮膚に付着した場合     万染された衣服、靴などは連やかに脱ぎ捨てる。脱ぎ捨てた衣服等は遠くに隔離 する。     皮膚への汚染を直ちに流水で少なくとも15分洗い流す。その後石けんと水を使って 良く洗い落とす。     日に入った場合     直らに流水で少なくとも15分間まぶたを指で良く開いて眼球、まぶたの隅々まで水 が良く行き渡るように洗浄する。     飲み込んだ場合     水でよく口の中を洗わせ、無理に吐かせてはならない。嘔吐が自然に起こったとき は、気管への吸入がおきないように身体を傾斜させる。 身体を保温して安静に保つ。				

火災時の措置	○ 消火剤	キシレンー2
XXVVVIII	粉末、泡(耐アルコール泡)、二酸化炭素、水噴	霧は時と場合によって有効。
	〇 消火方法	
	初期の消火には粉末、二酸化炭素、水噴霧等を	
	大規模火災の際には泡(耐アルコール泡)、水呼 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷	
	移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す	
	○ 消火を行う者の保護	
-	消火作業の際には自給式呼吸器等の保護具を	着用する。
漏洩時の措置	○ 人体に対する注意事項 作業の際は保護具を着用し、飛沫が皮膚に付着 に注意して風上から作業させる。風下の人を退避	
		く出来るときは漏洩部を
Informa	tion about the HNS	こ火災・爆発の危険性を
spill rest	oonse procedure on	な収させ密閉できる容器
	•	し、安全な場所に導いように注意する。海上
sea wat	er, based on MDPC	さける。
roco	arch and study	AND SECULAR SECTION AND ADDRESS.
1656	earch and study	、空気呼吸器(自給式)
		6E 685 785
	身体の保護具:ゴム長靴、保護衣等	E-MAN T
	) 検知器具	
	2 (東京山田) ·	
	<ul><li>キシレン検知管</li></ul>	
海上羅油牌の提	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)	
海上漏洩時の措	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器) 置 の 船上漏洩等 発火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな	
海上瀬洩時の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)	- 方が蒸気の発生を抑えやす
海上瀬洩崎の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)  ② 船上漏洩券 ・ 免火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水器/ズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気からま るため船首を風下に向ける。船首を風下に向ける。	- 方が蒸気の発生を抑えやす 乗組員を守り引火爆発を避け 5ことができない場合は水霧
海上漏洩時の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器) 置 船上湯辺時 発火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水霧ノズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気から	:方が蒸気の発生を抑えやす果組員を守り引火爆発を避けることができない場合は水霧きない場合は、吸収性ポリマ
海上瀬洩崎の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)  ② 船上湯曳券 ・ 免火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水器/ズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気から るため船首を風下に向ける。船首を風下に向ける。 を使用して蒸気を防ぐ、船外に洗い流すことがで ーまたはゲル化剤を散布し固形化して、蒸気の乳	:方が蒸気の発生を抑えやす果組員を守り引火爆発を避けることができない場合は水霧きない場合は、吸収性ポリマ
海上瀬洩崎の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)	- 方が蒸気の発生を抑えやす 乗組員を守り引火爆発を避け らことができない場合は水霧 きない場合は、吸収性ポリマ &生を抑えた後に回収する。
海上蒸洩時の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)  ② 船上漏洩時 ・ 発火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水器/ズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気からす るため船首を風下に向ける。船首を風下に向ける。 を使用して蒸気を防ぐ、船外に洗い流すことがで ーまたはゲル化剤を散布し固形化して、蒸気の乳  ○ 海上流出時 ・ 外洋等で蒸気が周囲に影響を及ぼすおそれのが 散をモニタリングする。外洋等であっても陸岸に抗	- 方が蒸気の発生を抑えやす 乗組員を守り引火爆発を避け ちことができない場合は水場 きない場合は、吸収性ポリマ を生を抑えた後に回収する。 ない場合は、蒸気及び液の拡 ない場合は、蒸気及び液の拡 を近するおそれがある場合
海上蒸洩時の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)  ② 船上漏洩時 発火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水霧ノズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気からき るため船首を風下に向ける。船首を風下に向ける を使用して蒸気を防ぐ。船外に洗い流すことがで 一またはゲル化剤を散布し固形化して、蒸気の身 ② 海上流出時 外洋等で蒸気が周囲に影響を及ぼすおそれのの 散をモニタリングする。外洋等であっても陸岸に担 は、放水により拡散薬発を促進する。蒸気が間裏 る場合は、風上からゲル泡を放射し海面を覆いる る場合は、風上からゲル泡を放射し海面を覆い	- 方が蒸気の発生を抑えやす 乗組員を守り引火爆発を避け うことができない場合は水費 きない場合は、吸収性ポリマ を生を抑えた後に回収する。 ない場合は、蒸気及び液の位 ない場合は、蒸気及び液の位 はに影響を及ぼすおそれがある場合 蒸気の発生を抑える。キシレン
海上蒸洩時の揺	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)  ② 船上漏洩策 ・ 発火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水霧/ズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気からするため船首を風下に向ける。船首を風下に向ける。を使用して蒸気を防ぐ、船外に洗い流すことがで ーまたはゲル化剤を散布し固形化して、蒸気の乳  ③ 海上流出時 ・ 外洋等で蒸気が周囲に影響を及ぼすおそれのが 散をモニタリングする。外洋等であっても陸岸に担 は、放水により拡散蒸発を促進する。蒸気が固圧 る場合は、風上からゲル泡を放射し海面を覆い減 は、液ル重は0、88と軽く、蒸気圧は低く、水に割	- 方が蒸気の発生を抑えやす 乗組員を守り引火爆発を承露 ちことができない場合は、吸収性ポリマ きない場合は、吸収性ポリマ と生を抑えた後に回収する。 ない場合は、蒸気及び液の拡 変近す者を及ぼすおそれがある。 等の発生を抑制無面上に消 がのため長時間無面上に消
海上漏洩時の指	・キシレン検知管 ・可燃性ガス測定器(検知器)  ② 船上漏洩時 発火源を管理し、閉鎖区域に蒸気が入り込まな 外に洗い流す。その場合は水霧ノズルを使用した い。大量流出の場合は、人体に有害な蒸気からき るため船首を風下に向ける。船首を風下に向ける を使用して蒸気を防ぐ。船外に洗い流すことがで 一またはゲル化剤を散布し固形化して、蒸気の身 ② 海上流出時 外洋等で蒸気が周囲に影響を及ぼすおそれのの 散をモニタリングする。外洋等であっても陸岸に担 は、放水により拡散薬発を促進する。蒸気が間裏 る場合は、風上からゲル泡を放射し海面を覆いる る場合は、風上からゲル泡を放射し海面を覆い	- 方が蒸気の発生を抑え避け 乗組員を守り引火爆発を避け ちことができない場合は水露 きない場合は、吸収性ポリマ 8生を抑えた後に回収する。 ない場合は、蒸気及び液の なり、蒸気及び液の なり、蒸気及び液の なり、 をしている をし

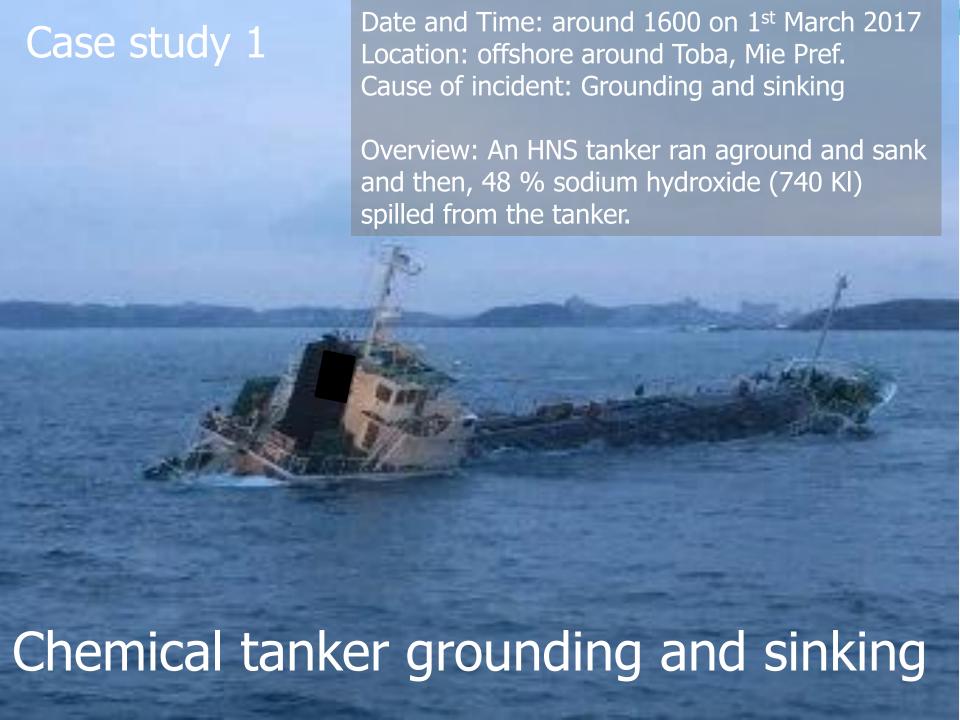
# Maritime Special support by advisory group Prevention Center consisted of professors

MPDC sets up the advisory group consisted of professors to obtain advices for the special incident response operation.

## Special Disaster Response Support Group = Advisory Group



- Chemist
- Fire engineering
- Marine Technology
- Toxicology
- Occupational Safety and Health for ships crew
- Search and Resue
- Marine transportation
- Marine Environment

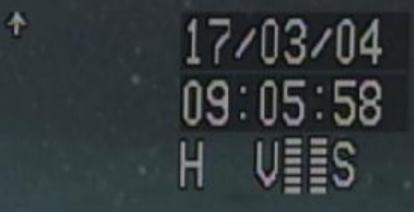


C131: SE D044.4 R-06

17/03/04 10:23:45 H ■V\_S

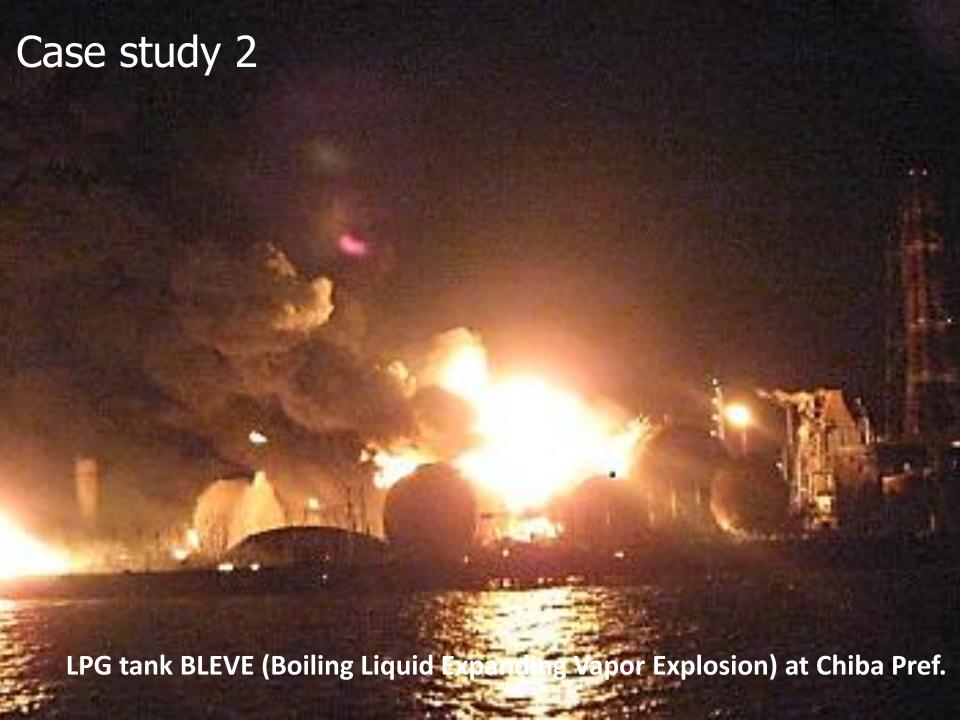
ŧ

C193:SSW D050:8 R-01



White sediments accumulated on the seabed. It seemed that the sodium hydroxide that had spilled from the tanker had reacted with the magnesium ions in the seawater to generate magnesium hydroxide.



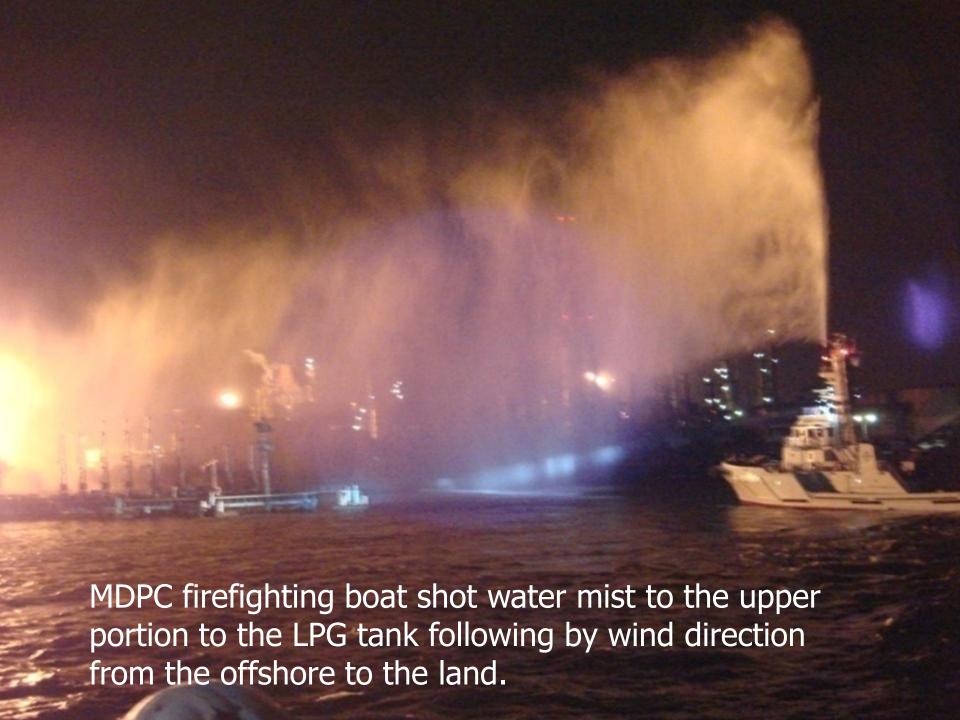




Overview: Fire caused by Great East Kanto Earthquake at Chiba refinery lead the LPG tank BLEVE

MDPC immediately dispatched MDPC firefighting boat to the refinery with special caution for the further BLEVE.









# Preparation and readiness by MDPC considering

## for Protocol to the HNS convention

(Expectation for the HNS convention)

From an incident response viewpoint, it might be beneficial to have strong support for incident compensation under the HNS Convention.

→ To minimize the incident damage, it is important to allocate significant manpower and logistical support to incident response. This could enable a quicker initial response to the severe HNS spill incident by the HNS convention.

## (Preparation and readiness by MDPC)

As the concept of carbon neutrality gains momentum, MDPC is also concerned about incident response involving next-generation fuels such as ammonia and hydrogen. MDPC will continue to take the following measures to respond appropriately to HNS incidents.

- With the spread of new fuels, seafarers and energy facility personnel will have more opportunities to handle new substances in the future. MDPC will therefore promote the establishment and development of systems to provide education and training that covers these new substances.
- In order to respond appropriately to ship owners and others requests for incident response, including new substances, the MDPC will promote the enhancement and strengthening of incident response systems, including the maintenance and development of necessary equipment and materials, and the education and training of staff and disaster prevention contractors who perform initial response measures with MDPC.



distributed, or republished without prior permission.